

浜松で受注拡大図る

地域の材木店との連携で

ポラテック富士が浜松営業所を開設

ポラテック富士（静岡県富士市、中内晃次郎社長）は6日に浜松営業所（遠藤充浩所長）を開設した。名古屋事業支店と静岡営業所の中間に位置し、より地域に密着した営業が可能になる。

営業所開設の背景には同社富士工場の2期は02年に建設され、ツインターボという並列加工ラインと多棟木拾い装置などを備えた大型工場だ。こうした重要な位置付けを持つ浜松営業所の所長に就任したのは入社10年目の遠藤充浩



遠藤 所長

氏。横浜事業支店で9年、名古屋事業支店で半年勤めた後、所長に抜擢された。

浜松は材木店などの販売店が強い地域だ。同社は材木店ルートを生かした営業で市場を開拓していくこうとしている。遠藤所長は「地

域の材木店との協調、共存、協業を心掛け、当社オリジナルのポルトラスなど他社にないものを提案していきたい」と既存のルートを重視する。

非住宅木造建築分野が新たな市場として注目されているが、同社は4工場で月間約13万坪の加工能力がある。大型物件への対応力は生産能力の大きさがあつてのものだ。一般流通サイズの集成材を組み合わせて大スパンを飛ばせるポルトラスやスーパークーキングビームなど、グループ会社のポラス暮し科学研究所などで開発してきた部材も生かされる。

このほど浜松市内で竣工した「デイサービスセンター花畑」（木造平屋建て82坪）は、ポルトラスを片流れで使用し、8段のスパンを飛ばしている。この工事でコーディネーター的な役割を果たしたモリケン（浜松市）の



ポルトラスの施工現場（「デイサービスセンター花畑」）

森學社長は「当初、S造で計画されていたが、ポルトラスで大スパンが飛ばせることが分かり、コストもS造より2割くらい安く仕上がった。しかもポルトラスの登り梁の角度が太陽光パネ

ルの設置にも適している」と話す。

遠藤所長は、ポラテックならではの強みを生かして、地域の材木店とともにプレカットの需要を獲得していきたいとしている。対象エリアの木造着工を月間500棟と想定し、当面、月間50棟、将来は100棟の受注を目指す。